

『 愛するオラ 』



オラ (hola) はスペイン語で、英語の「hello」の意味。スペイン育ちの私にとっては1番この言葉が思い出深い。愛鳥オラは、今年でなんと20歳になる。人間で例えると95歳過ぎであろう。生まれて1カ月のオラをペットショップで買った。

昔からインコが大好きな私。黄色いインコを飼っていたので、同じインコを購入したかったのだが、黄色は一羽の小桜インコだけだった。大きな鳴き声でめっちゃくちゃ元気だったオラ。買った時から何とか言葉を教えたいと思ったのだ。小鳥が発音しやすい言葉を選び、「thank you」を、毎日2カ月間何度も何度もゆっくりと大きな声で発音した。なんと3ヶ月目には、オラはサンキューと言ったのだ。なんと嬉しかったことか！親バカかもしれないが、私にはサンキューと聞こえた。アメリカ映画を見ていた時、女優がサンキューと言った後もすぐにそれをテレビの横のケージの中からオラはサンキューとリピートしたのだ。朝は5時ご

ろに起き、夕方の 4 時には寝る。黒い布をケージから取ったり、かぶせたりするたびにサンキューと言う。もちろん鳥はこの言葉の意味はわかってはいないが、そう答えられると、なんとお行儀が良いのだろうと感心してしまう。

大好物は、アーモンド、りんごや冷たいみかんだ。特にアーモンドを食べ始めてからは毛並みがつやつやになり若返ったのだ。真似するように私もたくさんアーモンドを食べた。ケージから解放していたので、オラは自由にリビングルームから寝室へ、あっという間に移動し凄いスピードで家中を飛び回った。飛ぶ速さは忍者のようなスピード。ある日留守番していた私は、オラの姿が見当たらずパニックになった。家中探してもいない。2つのトイレの中に手を突っ込んでオラが流されてしまったのではないかと焦った私。1時間後にはクローゼットの中にキョトンと座っていた。

オラの鳴き声は、かなりうるさい。かん高くキンキンしているのだ。いろいろな鳴き声があり、怒っている時、甘えている時、怖がっている時など音色が変わる。それはまるでピアノの音色が変化するように変わるのだ。お気に入りの場所は、私の左肩に乗っている時である。私が練習する時も、肩の上で聴いていたり、寝ていたりしている。好きな曲はショパンのノクターンやショパンの協奏曲。高

い音域やトリルを弾いている時は上機嫌だ。ところがフラメンコの低い歌声や、足のステップを聴くと不機嫌になる。鳥もお好みがあるようだ。潜ることが大好きな小桜インコなので、私のシャツの中に入って眠ったり、髪の毛の中で遊んだり、本当に見ているだけでも飽きない。

来客が大好きで、必ず私の友人が来ると水浴びをする。氷水の中に入って「私を見て！」と言う感じでパフォーマンスが始まる。水浴びが終わると高い衝立まで飛んでくちばしを機具で研ぎ始める。名前通り、ラテン的な外交的な性格なのだ。

4年前のある日突然飛べなくなってしまった。白内障が始まり、バランスが取れなくなったため、その日以来歩くだけの生活になった。私はテーブルの上にオラのおもちゃをたくさん作り歩く公園のように、リハビリパークを作った。現在のお気に入りの場所は、子供の頃オランダ人の友人からプレゼントされたオランダの手作りの木靴の中だ。1番下にホカロン貼って常に冷やさないように心がけている。木靴の中で気持ちよさそうに昼寝をするオラ。彼女を見ていると、たくさん学ぶことがある。1人でもあきらめないうで、常に前向きで自分のペースで毎日元気よく生きている。オラとは言葉が通じないけれども常に心が通じ合っている。オ

ラを手のひらに乗せて昼寝をすると、必ずオラの夢を見るのだ。動物だから人間よりもテレパシーが強いのだろうか。

サンキューという言葉はとても大切に心が穏やかになる。毎日何度も何度もサンキューと私にしてくれるオラ。毎日、人生を大切に感謝しながら生きていこうと常々思う日々である。

ピアニスト／大阪芸術大学大学院教授

熊本 マリ



Mari Kumamoto